



黒川美克 議員

**生涯学習の推進と  
生涯学習施設の  
今後のあり方**

**問** 生涯学習の推進について、どのように考えているか。

**答** かわら美術館や図書館等で、市民や市民団体による様々な体験機会を

数多く、幅広く企画・実施した。

まちづくり協議会では、地元住民が講師となつての体験教室や野鳥観察会、さんすう教室などの学習支援、公民館では子どもが企画・運営したチャレンジマート等が行われた。また、子ども防災リーダー養成講座などでは、受講経験者が新規参加者のサポートに当たり、講座で得た知識や体験を、学校や地域防災活動に活かしている。スポーツでは、全国大会や世界大会へ出場して好成績を収める子どもが多く、子どもたちの目標になっている。

**問** 公共施設総合管理計画の推進により、生涯学習施設の総量圧縮が図られますが、生涯学習

への影響をどのように考えているか。

**答** 公共施設のあり方は、「新たな施設はつくらない」・「機能の複合化・集約化」を基本的な考え方とし、施設をコンパクトにして稼働率を上げ、市民が多く集う場所を目指している。生涯学習は、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」を基本的な考え方としている。まなびは地域の様々な場所で行うことも可能であり、利用者の想いに寄り添い、対応していきたい。

公共施設総合管理計画は、総合計画の基本計画策定期に合わせ4年毎に見直しを行う。また、推進プランは、当初予算編成時に合わせて見直しを行う。本計画は今後の財政状況を踏まえ、学校施設に他の公共施設の機能を複合化・集約化して、学校を地域コミュニティの拠点とし、生涯学習やまちづくりを進めていく。施設の運営に協力いただいている市民、利用者、関係者に対して情報発信を、早目・こまめにし、ご意見を参考にしながら案を練り上げ、施設利用者には不便をかけるが、市の将来に向けた取り組みを丁寧にお伝えし、ある程度の案がまとまった段階で、説明会などの機会を設けたい。



幸前信雄 議員

**「公共施設の  
あり方検討」  
について**

**問** 何故、「公共施設老朽化問題」に取り組むことにしたのか。

**答** 少子高齢化の進展と経済成長の鈍化により歳入が減少する一方で、社会

保障費が増大し、自治体予算を圧迫。さらに「公共施設老朽化問題」が、高浜市の将来に大きな影響を与える「財政問題」となる。この問題を先送りすることはもはや至難であり、一刻も早く課題解決に向けて動き出す決意をした。

**問** 高浜市の公共施設の現状は。

**答** 高度経済成長期の急激な人口増加に応え、教育文化施設やコミュニティ施設等、多くの公共施設を整備してきた。これら建築後30年を経過した公共施設が多く、大規模な改修や修繕が必要。全ての公共施設に老朽化対策を実施することが困難な状況である。

**問** 高浜市の公共施設をどのようにしていきたい

いか。

**答** 本市の公共施設の総面積の4割を占める学校を中心として、施設の複合化を図っていきたい。

**問** 高浜市の公共施設を、このままの状態を維持していくとどんな問題が発生してくるか。

**答** 今後40年間で公共施設に係る投資的経費は総額522億円、年平均で約13億円と試算。直近5年間平均の公共施設に係る投資的経費が約2.6億円と、約5倍の費用が必要。「高浜市公共施設あり方計画(案)」で機能移転や複合化により、今後40年間の公共施設に係る投資的経費を299億円に削減した。施設はあったほうが良いか、ないほうが良いか聞くと、あったほうが良いとなるが、限られた財源でこのままの状態を維持していくことが困難。

**問** 市民のどれくらいの方が理解していると考えるか。

**答** 平成27年度に、5小学校区で市民説明会のアンケートでの参加者は593人、内317人から回答をいただき、学校施設への複合化や集約化に68%の方が賛成。